

令和3年度入学試験 面接「概要とねらい」

(入試情報公開用)

人間発達文化学類 学校推薦型選抜Ⅱ スポーツ健康科学コース

(体育科に関心のある小)

【概要】

「体育科に関心があり、小学校教員になることを強く希望する者」を対象に面接を行う。与えられた課題について、自己の見解を示しながら話し合いを進めていく。または、調査書、推薦書、志願理由書をもとに質疑応答も行う。

【ねらい】

面接場面での話し合いや質疑応答を通して、小学校教育に関連する内容についての理解力、思考力、表現力をみるとともに、学校教育への関心、意欲、適性等を総合的にみることをねらいとする。

【資料】

僕は体育の授業が大嫌いです。体育の教師も大嫌いです。

なぜあなた達体育教師は僕達にクラスメイトの前で恥をかかせようとするのでしょうか？ 手本のように上手に出来なくてまるで死にかけの虫のようにバタバタと手足を動かす僕をクラスメイトが笑う。笑ってくれればまだマシ、軽蔑しきった顔で僕を見るんです。

「被害妄想が強いね」そう思いましたか？ いいえ。あなた達にはわからないのです。だって経験したことないから。体を上手く動かせる人間にはこの感覚は死んでもわからないでしょう。惨めな劣性の烙印を押される感覚。授業で恥をかかされるのです。

「他の科目でも同じこと言えるじゃないか」ですか？ 他科目と大きな違いはチームワークを要することでしょう、体育って。自分が圧倒的に足を引っ張ったせいで気まずい雰囲気になったバスケの授業は今でも思い出します。他科目で誰かの足を引っ張ることなんてないでしょう。たとえそこにあなた達教師がフォローに入ろうがそれはただの憐憫*。「劣性だけど仲良くしてやれよ」という哀れみです。

「努力して上手になればいいだろう！」あなた達が顔を真っ赤にして言いそうですね。あのね。それなり努力しましたよ。クラスメイトにばれないように明け方駐車場で父とキャッチボールをしたり、狭い部屋で家族総出でバレーのサーブのフォーム研究したり、夏休みの公園で毎日走ったり。それでも無理でした。球は見えないし足も遅いまま。何よりクラスメイトたちが見つめる中、自分の運動神経が奇跡を起こせるわけもなく、また惨めマイレージは貯まっていきます。

「そんなん努力のうちに入らない！ 俺が運動部現役だったころは……」なんて、ご自身のスパルタ経験を引き合いに出す方もいらっしゃるでしょう。ちょっと待ってください。なぜ自分がやりたいと言ったわけでもない、この歪な科目「体育」にそこまでストイックに時間と体力を使わねばならない義務があるでしょう。あなた達はスパルタ部活動を自分の意志で選択したのでしょうか。一緒にしないでください。

「体育」と「スポーツ」は同義ではありません。スポーツ観戦は楽しいものです。しかし小学生が「体育」と「スポーツ」の違いをわかるでしょうか。体育で惨めな目にあうことでスポーツまで嫌いになります。他国に比べてスポーツ熱が薄いとしたら、スポーツが得意なあなた達が都合のいいように体育をカスタマイズした結果です。

(中略)

最後になりますが僕から「頼むからそっとしておいてください」とお願いしたい。上手い人、やりたい人はやればいい。先天的にできない人間はそっとしておいてほしい。休んでもそっとしてくれ。どうせあなた達には我々の気持ちなんてわかりやしないんだから、したり顔での憐憫で恥をもうかかせないでほしい。以上です。ありがとうございました。

*憐憫 (れんびん) : あわれむこと、情けをかけること、あわれみ

出典：頼むからそっとしておいてください

(ヒャダイン、体育科教育、大修館書店、2019年3月)

出題の都合上、原文を抜粋・改変している。